

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成21年8月27日 (2009.8.27)

【公開番号】特開2007-68986(P2007-68986A)

【公開日】平成19年3月22日 (2007.3.22)

【年通号数】公開・登録公報2007-011

【出願番号】特願2006-214220(P2006-214220)

【国際特許分類】

A 4 5 D 44/00 (2006.01)

D 0 4 H 1/46 (2006.01)

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/84 (2006.01)

A 6 1 Q 1/14 (2006.01)

D 0 6 M 13/144 (2006.01)

D 0 1 F 6/92 (2006.01)

D 0 6 M 11/00 (2006.01)

D 0 6 M 11/38 (2006.01)

D 0 4 H 1/42 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 44/00 Z

D 0 4 H 1/46 C

A 6 1 K 8/02

A 6 1 K 8/84

A 6 1 Q 1/14

D 0 6 M 13/144

D 0 1 F 6/92 3 0 7 B

D 0 6 M 11/00 1 1 5

D 0 6 M 11/38

D 0 4 H 1/42 X

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月10日 (2009.7.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも 2 層以上の不織布を積層一体化して構成される積層不織布であって、前記積層不織布が、(A)数平均による単繊維直径が 1 ~ 5 0 0 n m の熱可塑性樹脂からなるナノファイバーにより構成された不織布層と (B)数平均による単繊維直径が前記ナノファイバーよりも大きい繊維により構成された不織布層とを少なくとも有し、前記ナノファイバーが束状に凝集した集合体を形成していることを特徴とするメイク落としシート用基材。

【請求項 2】

前記 (B) 層の、数平均による単繊維直径が前記ナノファイバーよりも大きい繊維の平均の単繊維直径が 1 ~ 1 0 0 μ m である、請求項 1 に記載のメイク落としシート用基材。

【請求項 3】

前記（Ａ）層を構成するナノファイバーの数平均による単繊維直径が２００ｎｍ以下である、請求項１または２に記載のメイク落としシート用基材。

【請求項４】

前記（Ｂ）層の、数平均による単繊維直径が前記ナノファイバーよりも大きい繊維の断面形状が異形断面である、請求項１～３のいずれかに記載のメイク落としシート用基材。

【請求項５】

前記積層不織布が、（Ａ）層／（Ｂ）層／（Ａ）層の３層から構成されている、請求項１～４のいずれかに記載のメイク落としシート用基材。

【請求項６】

前記（Ａ）層の前記積層不織布に占める割合が１５質量％以上、５０質量％以下である、請求項１～５のいずれかに記載のメイク落としシート用基材。

【請求項７】

前記積層不織布の湿潤時の引張強力が０．５Ｎ／５０ｍｍ以上である、請求項１～６のいずれかに記載のメイク落としシート用基材。

【請求項８】

前記積層不織布の湿潤時の引張強力が５０Ｎ／５０ｍｍ以上である、請求項７に記載のメイク落としシート用基材。

【請求項９】

前記積層不織布の湿潤時の引裂強力が１Ｎ以上である、請求項１～８のいずれかに記載のメイク落としシート用基材。

【請求項１０】

前記積層不織布の保水率が３００～２０００％である、請求項１～９のいずれかに記載のメイク落としシート用基材。

【請求項１１】

請求項１～１０のいずれかに記載のメイク落としシート用基材にクレンジング剤を含浸してなることを特徴とするメイク落としシート。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

すなわち本発明は、少なくとも２層以上の不織布を積層一体化して構成される積層不織布であって、前記積層不織布が、（Ａ）数平均による単繊維直径が１～５００ｎｍの熱可塑性樹脂からなるナノファイバーにより構成された不織布層と（Ｂ）数平均による単繊維直径が前記ナノファイバーよりも大きい繊維により構成された不織布層とを少なくとも有し、前記ナノファイバーが束状に凝集した集合体を形成していることを特徴とするメイク落としシート用基材である。